

週目点

川本 裕子 早稲田大学教授



▶ 日銀決定会合

金融政策頼み 脱却を

日銀政策委員会・金融政策決定会合が八、九日開かれる。今回の会合でも金融政策は維持される見通しだ。

景気回復の足取りはなお強くないうえ、デフレ脱却も道半ばであることを考えれば、早急な金融政策の変更は考えにくいのは事実だ。しかし同時に、二〇〇一年三月以来続くゼロ金利が国に財政規律の緩み、金融機関に棚ぼた的な利益かさ上げといったモラルハザード（倫理の欠如）に近い副作用をもたらしていることは忘れるべきではない。

こうして考えると、拙速に「出口」を探るよりも、今のうちに国は財政再建、銀行は本質的な収益力強化に取り組むことが最優先課題であるといえる。

特に、日本政府の課題は大きい。社会保障制度改革、公務員制度改革、国と地方の税制改革（三位一体改革）を進め、将来、政府が「金融政策頼み」の状況を脱却できるように、改革を一層加速すべきだ。

(C) 日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。